令和３年度

穴吹中学校
「学力向上実行プラン」

学校の教育目標を踏まえた学力向上の重点目標

○「主体的･対話的で深い学び」を実現する授業改革

○ICT等を利用した個別最適化の学習

学力向上検討委員会構成

学力向上推進員	委員				
佐藤　美幸	校長	濱田　雅子	１年担任	河見　弘明
	教頭	櫻間　伸章	２年担任	藤本　修嗣
	教務	宇山　壮史		

校長

濱田　雅子

【各校の取組状況の把握について】

◎次の（１）～（３）をバランスよく取り組み，学力の向上を推進

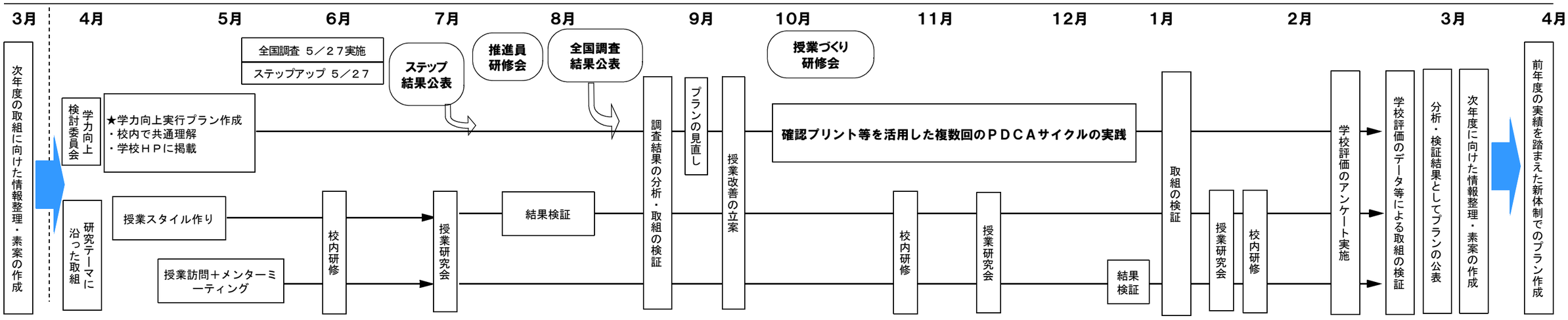
（１）知識・技能の習得

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○基礎･基本的なことについての学習には，学びの意欲が見られる。 ●自分の考えをまとめたり，表現したりすることができるようになったが，まだ苦手とする生徒がいる。 ●定着に個人差が大きく，基礎学力の二極化が見られる。	･授業ごとに学んだことや考えたことを表現することができる。 ･基礎的･基本的な知識･技能を身につけることができる。	･タブレットの効果的な活用 ･朝の自主学習の時間に基礎･基本の学習ができるような工夫。 ･毎時間授業の最後の５分間の振り返りをねらいに沿った振り返りになるような問いかけ。		･タブレットの活用により繰り返し学習することが容易になり、基礎基本が身についている。 ･朝の学習による基礎基本の補強ができた。 ･校内研修を通じて授業での取捨選択の重要性に気づくことができた。	･**セルフチェック**をしながら自ら基礎基本を定着させる習慣づけ ･**タブレットと紙によるハイブリット学習**の工夫 ･授業内容･活動の**取捨選択** ･タブレットを活用した効果的な**家庭学習**

（２）思考力・判断力・表現力等の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○ファシリテーションの技術が身につき始め，話し合いを深めながら進める力がついてきている。 ●課題に応じて，自分の考えをまとめたり，新しい考えを想像することに課題がある。	･ファシリテーションの技術をさらに磨き，自分の考えを話したり，書いたりすることができる。 ･目的に応じて，根拠や理由を明らかにしながら，話したり書いたりすることができる。	･ホワイトボードミーティング®の機会を増やす。 ･授業の中で中心発問を磨く。（考えさせる発問をする） ･ノイズの少ない説明を心がける。 ･「気軽な授業研究会」の開催。		･コロナ禍でも**タブレット**を活用したり、**ホワイトボードミーティング®**を取り入れたりして、考えを話したり、書いたりする力が育っている。 ･アウトプットでより高い学力がつくことを実感 ･ほとんどの授業で**R80**を実施できた。 ･授業公開や参観を通して学び合えた。 ･教科横断した学びにチャレンジできた。	･**単元を貫いた問い立てと授業構成マネジメント** ･**アウトプット**を重視した授業づくり ･授業のねらいを捉えた**R80の設問** ･学習活動の**取捨選択** ･国語力向上タスクフォースの推進 ･教科間連携の工夫･実践

（３）主体的に学習に取り組む態度の育成

児童生徒の状況（○よさ・●課題）	具体的目標（目指す子供の姿）	具体的方策（教員の取組）	中間期の見直し	達成状況（評価）	次年度における改善事項
○授業に取り組む態度が良くなってきた。 ●自分で課題を見つけ取り組むことができていない。	･自分の課題を見つけ，その解決に向けて，自ら調べたり，学び合ったりしながら主体的に取り組むことができる。	･個に応じた指導とアドバイスを行う。 ･生徒同士のオンライン･オフライン両面での学び合いの場を作る。 ･授業，家庭をつなげる家庭学習を工夫する。		･タブレットを活用により、集中して検索したり考えをまとめたりすることができた。 ･コロナ禍でもタブレットを活用して学び合ったり話し合ったりすることが日常化している。 ･家庭学習と授業を効果的につなげることは不十分だった。	･タブレットを日常的･効果的に活用することで、さらに**学習の個別最適化と協働的な学びの推進** ･**自ら**の目標を明確にして計画を立てる習慣づけ。**セルフマネジメント**力の育成。 ･**宿題の意味づけ**と内容の見直し

令和3年度　学力向上ロードマップ